

5

課題番号	研究課題名	研究代表者	評価結果
14104024	初期中胚葉の組織化と分節化の分子基盤	相賀 裕美子 (国立遺伝学研究所・系統生物研究センター・教授)	A+
<p>(意見等)</p> <p>本研究では、中胚葉の発生機構について、(1) 心臓・血管系の発生・分化機構、および(2) 体節形成の制御機構について解析をおこなった。</p> <p>(1)については、Hesr1やHesr2が心臓の房室境界形成や動脈形成に重要な役割を果たすことを明らかにした。(2)については、Mesp2が分節時計のリズムに従って体節の境界の位置を決定し、さらにRipply2とネガティブフィードバックを作り体節の前後軸のパターン形成を制御することを明らかにした。</p> <p>特に、体節形成機構の理解に対する貢献度は非常に高く、期待以上の成果であったといえる。</p>			

6

課題番号	研究課題名	研究代表者	評価結果
14104006	根圏における生物共生機能の解明	鈴木 和夫 (日本大学・生物資源科学部・教授)	A
<p>(意見等)</p> <p>この研究課題では、1. 森林における外生菌根と植物の共生に関する基礎研究、2. 大型のライゾトロンをもちいた根共生系の技術確立、3. 実験生物としてマツタケ外生菌根の機能研究とその応用、から成り立っている。</p> <p>3つの分野において、内外の学術誌に論文が発表されており、研究の進展が評価できる。これらの成果は、今回導入した大型の研究装置により可能になった研究というよりむしろ、個別の研究者による研究の成果として評価できる。特に、野外における外生菌根と植物の相互作用についての研究の進展がみられたことは評価に値する。一方、大型のプロジェクト的な2. のライゾトロンの成果は、技術的な方法の検討に終わっており、今後この装置を用いた研究の推進が望まれる。</p> <p>経費的に、5年間での外生菌根の共生に関する基礎的な研究から、多くの成果が生まれている点は、コストパフォーマンスが高い。本来、申請時点での課題設定が、明瞭な研究課題の解明より、外生菌根の共生に関する基礎、応用的な研究の促進にあったと思われ、当初の目的を達成していると評価できる。</p>			